



ほふる

◆建設的な生き方へのお手伝い (Just do it!) ◆
～あなたの悩み事は当社までご相談下さい～
【今月の一冊】 シニア世代の生き方革命
芹澤 幸彦 著 幻冬舎
ホームページ URL <http://primecorporation.jp/>

発行日 2018年6月1日 Vol. 188
発行元 有限会社プライム・コーポレーション
ライフコンサルタント 渡邊 敏徳
〒401-0015 山梨県大月市大月町花咲 147 番地
TEL 0554-22-2810 FAX 0554-22-2859

21世紀の生き方

日本は世界最速で高齢化社会が進行しています。2017年総務省統計局「労働力調査」によれば、日本の就業者の高齢化が進み、全就業者の50歳以上の割合が40.2%に上昇しました。2010年は34%でしたので、驚くことに7年で一気に6%も上がりました。

平成25年4月1日には高年齢者雇用安定法の改正が行われました。企業は、心身の故障、若しくは勤務状況が不良で懲戒理由に当たる者以外は希望者全員を雇用継続しなければならない、会社内における高齢者の構成比はますます大きくなっていくことになってきました。3人に1人がシニア社員の時代に突入します。

しかし、60歳からの雇用延長で65歳まで働くことになったおかげで、シニア社員は非常に難しい立場に立たされていくことになります。少子高齢化で役職定年はそのままでありながら、後継者のためにノウハウの伝承を65歳まで会社から期待されるようになり、人手不足解消のために働くことを期待される環境の変化があります。年金支給も昭和36年以降に生まれた男性は全員65歳からの年金支給になるので、それまで働くしか選択肢がない状況になりました。私も38年生まれなので、これに該当します。

日本経済新聞の記事で衝撃的な情報がありました。「人生100年時代のマネーとキャリア、2%の衝撃」(2017年10月14日朝刊)です。65歳で退職後、100歳までの生活に必要な資産を持つのは、退職者全体のわずか2%だそうです。

老後生活に必要な資産の中心が年金になると思います。1948年には12.5人で支えていた年金も、2010年には2.8人で1人を支えることになり、2050年には1.4人で1人を支えることになるそうです。ファイナンシャルプランナーが老後は少なくとも4000万円の貯蓄が必要だと言っていますが、貯蓄をしていくことの重要性はわかっても、このような経済状況の中でなかなか資産形成をしていくことは難しい状況にあります。世帯主の年齢階級別貯蓄・負債現在高、負債保

有世帯の割合を平均的にみてもそれほど私たちの貯蓄は高くありません。こんな時代を生きていくために大切なことは、人生を80年若しくは90年として考え、健康で元気に生きていく視点を持つことが重要なのではないかと感じます。人生の充実度を上げていけるようにしたいものですね。



仮想通貨

最近、「仮想通貨」について聞かれることがよくあります。仮想通貨の普及がすごい勢いで進んでいるからだと思います。逆に政府発行の通貨に対する信用が低下してきているとも言えるかもしれません。世界中が低金利の中、各国が借金で景気を浮揚している現実があります。まさに世界は「借金バブル」です。

仮想通貨によって人々のライフスタイルが変わろうとしています。1970年代にインターネットが登場した時のように。マイクロソフト創業者のビル・ゲイツは「銀行の機能は世の中には不可欠だが、今の銀行は不要だ」と言っています。インターネットの出現により旧来の習慣や価値観が大きく変わってきました。これからますます普及していくのが「キャッシュレス時代の到来」です。キャッシュレス時代の到来は、仮想通貨時代の到来でもあります。そして、キャッシュレス時代の主役はデジタルコインです。

現在の世界の通貨の時価総額を見てみると、第1位はドル、第2位はユーロ、第3位は元、第4位は円、そして、仮想通貨の筆頭ビットコインはなんと第6位、イギリスのポンドより多い状況です。早ければ10年後世界中の人々が買い物をするとき、仮想通貨で決済することが標準になっているかもしれませんね。もしかして給与も仮想通貨で支払われる可能性が高いような気がします。



【座右の銘にしたい名言】



点が将来結びつくと思わずにはいけない。信じるものを持たなければいけないのだ。

(スティーブ・ジョブズ/米国の実業家、アップル創業者)